

まだ遅くない。チャレンジはこれから!!

オフロードバイクレース
BMWモトラッド「インターナショナルGSTロフィー 2020」

日本代表 **君島 真一** さん (水無)

大型バイクの運転免許を41歳で取得。4年でオフロードバイク(※)レースの日本代表に選ばれ、2月にニュージーランドで開催された世界大会に参加した、市内在住の君島真一さんにお話を伺いました。

「GSTロフィー」とは、どのような競技ですか？

BMW本社が主催する、同社の「GS」というバイクの競技大会で、2008年から2年に1度、国を替えて開催しています。速さだけでなく、運転技術や体力、英語でのコミュニケーション能力などを

1チーム3名で協力し合いながら競います。

41歳で大型バイクの運転免許を取った理由は？

家が日光街道沿いのため、子どもの頃から家の前を走るバイクに憧れていました。

その後、乗る機会はずっとありませんでしたが、仕事や育児が落ち着き、自分の時間が取れたのを機に「夢にチャレンジしよう」と、免許を取得しました。

競技に参加したきっかけは？

当初、別のメーカーのバイクを購入する予定でしたが、職場でシंगाポール出身の方に「GS」を勧められて購入しました。

そして「GS」の競技会があると聞き、2年前に思い切って国内の大会に参加しました。結果は散々でしたが、さらに「GS」の魅力にはまり、上位を目指すようになりました。

今回の世界大会の結果と感想は？

21チーム中17位という結果で、他国との体格や選手層の厚さの違いを強く感じました。しかし、世界のの人たちとニュージーランドの美しい景色の中を走り、8日間という時間を共有し、仲間になれたことは良い経験になりました。

「GS」とバイクの魅力は？

「GS」も含め、近年、大型オフロードバイクの人氣がでてきました。旅行などの長距離から、オフロードまで使い勝手が良く、さまざまな遊びができます。

バイクは音や加速感、ウェア(バイクを乗るときに着る服)を含めたスタイルが最高ですね(笑)



大会で低速バランスを取りながら課題をクリアする君島さん

今後の抱負は？

「GSTロフィー」への参加は、1人1回限りと決まっております、もう参加はできません。今後は「GSTロフィー」を多くのの人に知ってもらおうと活動と、次の代表への橋渡しをしていきたいです。

個人的には、国内のオフロードレースの上位を目指すことと、体力づくりも兼ねて「日光国立公園マウンテンランニング大会」に挑戦することが目標です!

インタビューを終えて

「仕事」「家庭」「バイク」を両立させることで、以前より時間の管理ができるようになったという君島さん。

バイクの話をする笑顔は、家の前を走るバイクに憧れていた少年の顔そのものでした。

※オフロードバイク…舗装されていない道路や、道として整地されていない土や砂などの上を走れるように作られたバイク